



2022.2.20 No. 53

発行 2022年2月20日
発行所 公益財団法人関西吟詩文化協会承認白鷺連合会
発行責任者 西村夕城
編集責任者 塩路澄誠

題字／西野楊郷

目次

白さぎ 53号

巻頭言	会長〈西村夕城〉……………	2
■ 令和4年 白鷺新年互礼会 開催	……………	3
■ 令和3年度 実態調査結果について	……………	3
■ 関吟総本部主催全国競吟大会の結果	……………	4
■ 令和3年度 総会報告（コロナ禍で総会中止・議案資料のみ）	……………	5
■ 令和3年度 諸行事の中止について	……………	5
■ 展 望 勇気と希望	広報部長 〈塩路澄誠〉……………	6
■ コロナ禍に負けるな！（止める勇気・実施する勇気、どちらを取るか）	……………	7
第18回 岳豊会吟詠の集い競吟大会 開催される		
コロナにも台風にも負けず…鷺恵会が「第51回鷺恵会競吟大会」開催		
岳豊会日高支部・女性部と事業部による合同研修会と吟行会を実施		
広島鷺夕会 第45回競吟詠大会開催		
140名の会員が集い「令和3年度鷺照吟詠会の集い」開催		
関西吟詩白鷺連合会・岳豊会の支部が2年ぶりに錬成大会を開催		
■ 史跡探訪の旅		
山 崎	広報部 〈天田澄慈〉……………	15
■ シリーズ 教室探訪コーナー		
関西大学吟詩部の現況について		
関西大学吟詩部OB会 会長 谷澤弘喜……………		17
■ 青年部だより		
詩吟と私	春鷺声栄会 山田恵美子……………	18
■ 編集後記／行事予定	……………	19
■ 白鷺連合会組織系統一覧	……………	20
■ 明るく楽しく & 明日を描いて温故新生		
協賛広告 本年もよろしく申し上げます	……………	22
■ お知らせ		
みんなで成功させよう！ 白鷺連合会創立60周年記念大会	……………	24



ご挨拶

白鷺連合会

会長 西村 夕城

コロナ禍での2年が過ぎ、また新たなオミクロン株が出て来て3年目に入ろうとしています。

この2年間で先行きが少し不安になりませんか。教室も開けない、集まりも話も出来ない状況にあって、各指導者が何を考え、会員が何を思っておられるのか掴みにくい状況にあります。

3月に入ると各会では3年度の事業・活動総括をし、令和4年度の会員登録も始まり、事業計画・予算と検討する時期になって来ました。

総本部は昨年10月に発表の「会員1万人復活活動の集中実施」に加えて「財政基盤の健全化」を最重点課題とし、地区連・各会に一層のご協力をお願いされております。

言うまでも無く各会に取りましても会員増員と財政は車の両輪で、各会の指導者は先が見えにくい不安な状況下においてこそ先頭に立って鼓舞しなくてはなりません。会の指導者が諦めたり、楽したら、下り坂が見えるような気が致します。

少なくともこの3月は、現在会員を維持しプラスに転じることを、そして4月から始まる令和4年度は1割増を目標に会員増員に向けて

対策を練り、会員に協力をお願いして頂きたいと思っております。

会員増員、財政健全化等につきまして何か知恵がありましたらお聞かせください。

また、今年の10月30日は「白鷺連合会60周年記念大会」を開催することとし、準備を進めております。

これから具体的な協力について各会にお願いをすることになります。そして、この60年を更に70年にと繋いで行くためには年齢の若い人も事務・会議に加わって頂いて進めて行くことが大切だと思っております。

今年は重要な年になると思ひまして、明るい挨拶になりませんでした。コロナ禍を挟んで4年間、ご協力頂き誠に有り難うございました。



令和4年 白鷺連合会 新年互礼会 開催

白鷺連合会新年互礼会が、1月9日（日）ホテルプラザオーサカにおいて開催されました。午後2時に谷澤暁声総務部長の互礼会開会宣言に始まり、大取鷺照副会長による力強い開会挨拶、小井鶴伸副会長先導による黙祷の後、酒井翔恵副会長先導の関西吟詩会歌合吟、古賀戊孝企画部長による巻頭言唱和、塩路澄誠広報部長先導による白鷺連合会会歌合吟へと、全員マスクと小声で行なわれ、セレモニーは進みます。

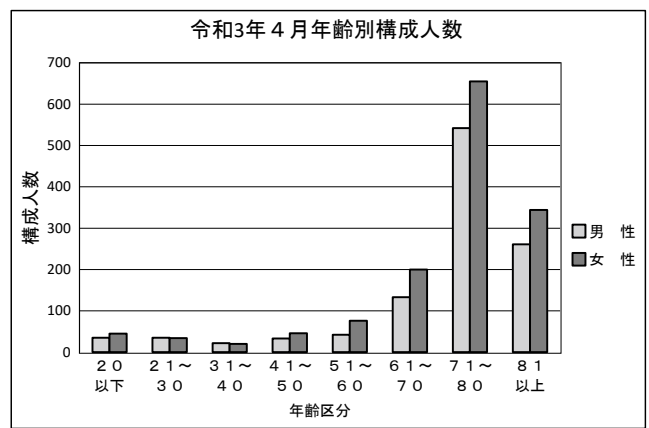
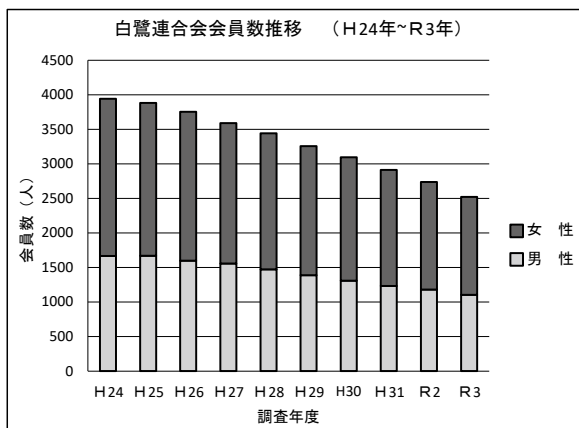
西村夕城会長より今年、白鷺60周年大会開催への実行委員会がスタートしたこと、代表挨拶として松尾岳豊顧問から、コロナ禍に続きオミクロン株蔓延が進む中、用心しながらも工夫を持って困難を乗り越える勇気を持って進むよう激励が飛ばされました。セレモニーが終わり、植村鷺登顧問のご発声で、乾杯・宴の幕が開きました。

これより宴司会は中岡蒼狼声青年部長率いる青年部員によって進められました。各人はマスク着用のまま、独酌、小声での会話に心掛け、舞台協演を楽しみました。宴もたけなわ、時間はアツという間に過ぎてまいります。飯田報鷺副会長の閉宴挨拶、松尾佳恵顧問の音頭により万歳三唱で閉会しました。名残尽きないなか、来たる60周年大会の成功に向かってコロナ禍に負けない強い気概の団結力を感じる一日でした。



記 塩路澄誠

令和3年度 実態調査の結果について



調査年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
男性	1667	1671	1599	1558	1472	1388	1309	1233	1181	1103
女性	2276	2212	2155	2031	1971	1870	1787	1679	1557	1420
合計	3943	3883	3754	3589	3443	3258	3096	2912	2738	2523

年齢区分	20以下	21~	31~	41~	51~	61~	71~	81以上	合計
男性	35	35	22	33	42	133	542	261	1103
女性	45	34	20	46	76	200	655	344	1420
合計	80	69	42	79	118	333	1197	605	2523

関西吟詩総本部主催 全国競吟大会に於ける白鷺会員の成績結果

◆全国新人中間層競吟大会結果☆

日時：令和3年11月14日(日)

場所：エーリック(兵庫県尼崎市)

<和歌の部>

5位：向井 康昭(広島鷺夕会)

入賞

中尾 恵(鷺照吟詠会)

佐藤 昌子(鷺照吟詠会)

<新人の部>

優勝：國吉 夏恵(浜松鷺長会)

8位：米田 邦子(岳豊会)

入賞

黒坂千代美(岳豊会)

<初級の部>

準々優勝：増田 直樹(岳豊会)

4位：山中 寿子(鷺声吟詠会)

7位：土田 克美(広島鷺夕会)

入賞

青木 朝紀(鷺照吟詠会)

齋藤 二生(春鷺声栄会)

近藤ぬい子(鷺伸吟詠会)

奥田 尚子(成秋会)

<上級の部>

準優勝：山田恵美子(春鷺声栄会)

8位：佐藤 昌子(鷺照吟詠会)

入賞

菅沼 裕行(浜松鷺長会)

下坂奈津子(船場吟詠会)

向井 康昭(広島鷺夕会)

松好 英実(天理吟詠会)

◆全国指導者級吟士権者決定吟詩大会 結果報告☆

日時：令和3年12月12日

場所：高槻市立現代劇場 中ホール・集会室

【師範以上(吟士権)の部】

4位：池田 久志(恍聖) 攝友会

8位：片山 温子(櫻伸) 鷺伸吟詠会

9位：中村 雅典(櫻照) 鷺伸吟詠会

11位：井垣 義昭(岳竹) 岳豊会

12位：米田 眞澄(秋澄) 成秋会

入賞：(プロ順)

山本眞佐男<広島鷺夕会>

森 佳奈子<攝友会>

尾崎 安彦<鷺恵会>

石橋 英子<広島鷺夕会>

【準師範の部】

準々優勝：伊藤 利博(鶴鈴) 鷺伸吟詠会

4位：菊川 節子(苑釉) 凜苑会

上位：真下 幸信(苾攝) 攝友会

入賞：(プロ順)

田中ますみ<岳豊会>

山田登志子<鷺恵会>

青木 耕二<鷺照吟詠会>

佐藤 一弘<広島鷺夕会>

青田英次郎<岳豊会>

【師範代の部】

上位：川根 幾恵(凜照) 鷺照吟詠会

入賞：(プロ順)

石飛 雄三<広島鷺夕会>

【和歌の部】

4位：森 佳奈子(佳仁) 攝友会

6位：藤原 博世(凜声) 鷺声吟詠会

入賞：(プロ順)

伊藤 利博<鷺伸吟詠会>

池田 久志<攝友会>

菊川 節子<凜苑会>

米田 眞澄<成秋会>

石本 哲郎<広島鷺夕会>

紀野実知子<浜松鷺長会>

天田富美子<澄声会>

尾上美千恵<志舟会>

“この大会に早朝より準備、お世話を頂きました大会委員の先生方に厚く御礼申し上げます”

令和3年度 白鷺連合会・通常総会書面議決結果報告

理事総数 72名（票） 回答 61名（85%）

5号議案 令和3年度 会計予算案
賛成61票 反対0票 未着分11票

【議案】

1号議案 令和2年度 行事経過報告
総務局5部（総務・財務・事業企画・
広報・ホームページ管理）及び女性
部・青年部一括書面報告
賛成61票 反対0票 未着分11票

6号議案 役員改選案 留任
賛成61票 反対0票 未着分11票

2号議案 令和2年度 会計決算報告
賛成61票 反対0票 未着分11票

【その他書面報告事項】

①第59回白さぎ吟詠の集い競吟大会 中止

3号議案 令和2年度 会計監査報告
賛成61票 反対0票 未着分11票

②第6回 白さぎ交流会 中止

4号議案 令和3年度 行事計画案
賛成61票 反対0票 未着分11票

③その他

- ・令和3年度 会員実態調査報告
- ・令和3年度 女性部行事計画
- ・令和3年度 青年部行事計画
- ・令和3年度 会費納入お願い

令和3年度諸行事の中止について

新型コロナウイルス感染の終息方向が本年度も見えない状況が続いており、また、冬場に向かってインフルエンザウイルスの流行も予測されるなど不安定な今日となっており、誠に残念で志気の停滞、吟詠技能の低下等々ご心配も多いところですが、常任理事会の結果、次の事業を中止とさせていただきますことと致しました。

- ・第60回 白さぎ吟詠の集い競吟大会 中止
- ・第7回 白さぎ交流会 中止
- ・第54回 白さぎ青年部大会(1/30)の延期(中止)

＜物故者＞ 森口雪孝師（令和3年7月）
安田鷺迪師（令和3年2月）
北井澄声師（令和3年1月）

令和3年度に逝去されました白鷺会員物故者に対し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

勇気と希望

白さぎ広報部長・HP 管理部長 塩路 澄誠
(澄声会 会長)



当初、コロナ禍の終息には、3年以上かかるであろうという予測がされていました。案の定、見通しが立たないままに3年目を迎える令和4年です。

三密を避けるコロナ対策と手洗い・消毒・マスク着用の励行が右にならえの日本人に定着、高齢者のワクチン接種も進み、予防薬・治療薬の開発も間もなく形になって来ることでしょう。少しずつ、世の中の閉塞感とストレスは解消されつつあり、辛抱した分、上手くコロナ禍と付き合っていく工夫も生まれ、徐々に用心しながら、山を乗り越えて希望も見えてきそうな予感がしています。

さて、そんなこんなの昨年から今年に掛けて吟界人である我々にも勇気と希望が湧くことができました。高齢者で構成される我々吟詠の世界でも、三密が避けられず、大きな声を出さず詩吟は、コロナ蔓延の最たるものと考えられ、会場使用を拒絶されることしばしば。その様な中、やっとコロナワクチン接種により、高齢者の死亡率も減少。待ってましたとばかり、勇気のあることですが、溜まりに溜まった閉塞感とストレスのはけ口にもなるとのことからでしょうか、コロナ蔓延対策を充分取ることを条件に、大阪で140人の80歳以上が集まって吟詠プラチナコンクール(大阪府総連)が開催されました。

これは、送り出すご家族もそうですが、主催

する側も開催するのに大英断がいったのではないのでしょうか？

ふたを開けると、欠席者は一人もいなかったと聞いています。もちろん、クラスターなどは起こしていません！

よくぞ、やりましたね！多少、無謀だとの声もありましたが、これだけ元気な高齢者を抱える吟詠界です。コロナ禍に負けて？詩吟を辞めてしまわれた方も多くいます。是非また戻ってきて下さい。気兼ねなく大きな声が出せる日は、必ず戻ってきますよ！

白さぎ広報紙のここ「展望」のページは従来、会長・副会長に順番で投稿して頂いてきましたが、一回りしたとのことなので僭越ですが、小生が筆を執らせていただきました。

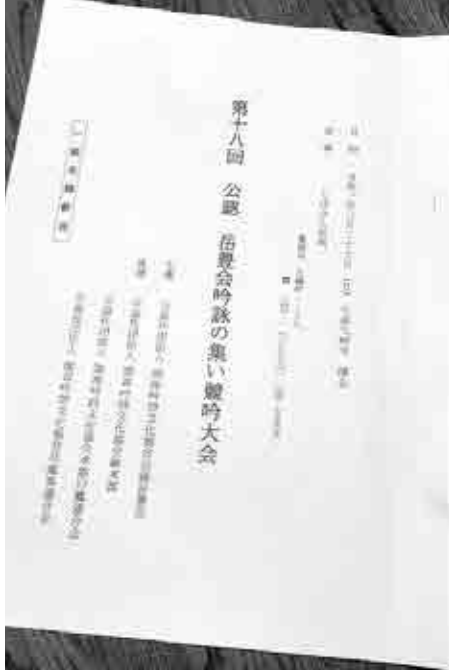
令和4年の今年、白鷺連合会創立60周年記念吟詠大会が催されます。既に大会実行委員会が立ち上がり、関西吟詩における「白鷺連合会」の役割を今一度考え直し、多くの屋台骨になる人材が育つ土壌、白鷺の誇り、自負を分かち合う大会になるのではないかと思います。

「和と奉仕の精神」白鷺のルーツを訪ねて、これからの新時代における白鷺の勇気と希望を模索しましょう！

以上

第18回 岳豊会吟詠の集い競吟大会 開催される

白鷺連合会所属の岳豊会さんからのお便りを以下にご紹介します。



昨年度はコロナ禍で、やむを得ず中止の、第18回岳豊会吟詠の集い競吟大会が6月27日(日)に開催されました。

大会役員の連携プレーが行き届き、感染対策に心がけながらの大会となりました。

皆さんの吟詠を聞き、元気をいただきました。子供たちも頑張りました。

一部写真を送ります。

(記 田中岳涼)



コロナにも台風にも負けず… 鷺恵会が「第51回鷺恵会競吟大会」開催

鷺恵会広報部 山田 峻 恵

新型コロナウイルスと台風14号というダブルパンチに見舞われた中、鷺恵会は昨年9月18日（土）に「第51回鷺恵会競吟大会&令和3年度総会・練成大会」を貝塚市立山手地区公民館で開催することができました。



世話役の南ブロック会員は、風雨の収まらない前日から会場づくりを行い、台風一過の当日は開場時間を1時間半遅らせてようやく開会にこぎつけました。



また感染防止対策は関吟本部のマニュアルに忠実に則り、マスク着用・手指消毒はもちろん、換気の行き届いた広い会場にゆとりをもって座席を配置。出吟者は除菌ウエットティッ

シュを各自マイクにかぶせ、吟詠後は各自が取り外す。

また昼食会場も数部屋に分けるなどの施策を徹底しました。

会場の舞台や参加者の机には季節の花々が飾られ、コロナ禍でありながらも華やいだ雰囲気の中、無事に終了することができました。一昨年は1年間、ほとんどの大会や行事が中止になり、会員間の交流も少なく疎遠になっていた中、今大会を通じて久しぶりにお互いの親睦と交流を図ることができ有意義だったと思います。



以上

岳豊会日高支部・女性部と事業部による合同研修会と吟行会を実施

お久しぶりです。

10月3日（日）今日はさわやかな一日。

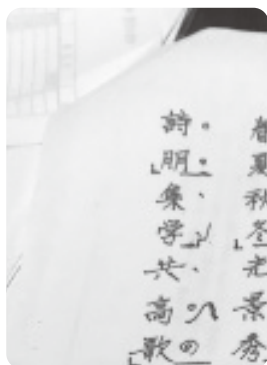
岳豊会日高支部の女性部と事業部合同で、研修会と吟行会を実施しました。

止める勇気、実施する勇気。どちらを取るか？
実施しました。

吟研修は、李白作 望廬山瀑布を岳豊会会長松尾岳豊先生より指導を受け、又白さぎ副会長岡田岳遙先生が作られた、神鍋をテーマにした漢詩をもとに研修しました。

その後バーベキュー、ビンゴゲームと楽しみ

八反の滝へと移動。滝をバックに今日研修の二題を合吟し、有意義な一日を終えました。



※岳豊会の田中岳涼先生からSNSで送ってき
もらったこれら画像とコメントは、白さぎ
HPに掲載させていただきましたが、そのま
まこの紙面でもご紹介いたします。

ご投稿ありがとうございました。 （塩路）

広島鷺夕会 第45回競吟詠大会 開催

広島鷺夕会副会長 石橋夕藻

令和3年10月31日(日)安芸区民文化センタースタジオにて、第45回の競吟詠大会を開催しました。

出吟者、前年度の優勝者、全国大会出場予定者の吟詠発表と、会長、副会長、相談役の模範吟詠を織り込んだプログラムが予定時間より早く進めることができました。

コロナ禍の長い間の緊急事態制限のもと、練習不足や、気力の減退で舞台に立つ意欲がそがれては居ないだろうかなど、心配の種は尽きませんでした。

当日は、天候にも恵まれて、出席率も90パーセント以上となり一安心いたしました。

また、一般来聴者19名を迎え、静粛な会場の中、熱吟が繰り広げられました。

ただ、新人の部の出場者がいなかったのが残念でなりません。

鷺夕会をあげて、新教室の開設や、一教室一名増員のキャンペーンを進めていますが、活動が功を奏して、来年度は沢山の新人を迎えたいものと思います。

出場部門では、師範以上の出吟者が一番多く、準師範の部、初級、上級、師範代の部となりました。

近年、師範代の出吟者が減少傾向にあることには注意が必要と感じます。上位に入れば嬉しい、入賞をのがせば悔しいです。

来年こそはと、また鋭気を養って次なる高みをめざしたいものです。

西村会長は閉会挨拶の中で「鷺夕会は、皆様のご理解とご協力で競吟大会45回の歴史を刻むことができました」と感謝の言葉を述べられました。

また「聞いていて声の色艶と張りがものたりなく練習不足は否めない」と激励されました。

来年10月23日には、鷺夕会創立50周年並びに曾根鷺夕会主を偲ぶ会を行う計画にしている事。

来年も元気で楽しく頑張りたいと締めくくられました。

以上



140名の会員が集い「令和3年度鷺照吟詠会の集い」開催

昨年はコロナ禍で止む無く中止となった「鷺照吟詠会の集い」。

今年こそは、との会員の熱い想いが結集し、11月23日に約140名の会員が集い、秋の一日を各支部の趣向を凝らした吟詠や舞いの披露で楽しんだ。「集い」は競吟大会ではなく、会員相互の交流と親睦の場であり、12の支部毎の発表(合吟・連吟・構成吟等)と、本年度の競吟大会各部門優勝者吟詠、新入会員紹介等が主な内容である。

当初予約していた会場が急遽使用禁止になるというアクシデントも生じたが、役員の方のご尽力により、岡山県生涯学習センターの大研修室を新会場として借りられた事は大変な幸運だった。

低料金での会場の確保という事だけでなく、舞台付きのホールでない事で、“出番待ちの舞台裏待機で客席が空っぽ状態”という従来の大きな課題が解消された事である。次の出番の支部は部屋の左端の椅子に座って他支部の発表を見ながら待機してもらえたからである。

また、研修室だけに、視聴覚機器の設備はあるものの、後は普通の会議室と変わらないので、例年の看板や聯を掲出するスペースも無く、勿論、スポット照明等の設備も無い。

看板は木谷暁秀先生の手作り、照明は3列の部屋照明の列単位のON/OFF操作のみ、といった、まさに手作り感あふれる会場・演出となった。

さらに、初めての視聴覚機器は開始前の2時間で木谷先生と岡大吟詩部の担当役員が操作方

法をマスター。不足していたマイクスタンドは外部からの事前借用分でカバー。

不測の事態に備えて借りていたアンプ付きスピーカーも会場常備のマイク故障に対処出来た。

鷺照吟詠会の最大のウリは学生会員が多い事だ。

全国の大学で詩吟サークルが廃部になる中、岡山大学吟詩部はこのコロナ禍でも着実に部員を確保し、しっかり練習しておられる。

当日もマイク無しでの気迫あふれる合吟を披露。

我々高齢者会員は大いに刺激され元気づけられた。

特別吟詠で、岡山市で4月に開催された「第20回チャリティーコンサート」参加作品(構成吟)「シルクロードの詩～遙かなるペシヤワール」が再演されたが、中国からの留学生で岡大吟詩部員の王 燕翎さんによる中国語朗読があり、改めて漢詩の美しい韻の発音に魅了された事も書き添えておかなければならない。

臨機応変な司会、的確な音響/映像の送出、テキパキとした舞台レイアウトと照明切替え、スムーズな運営進行、早朝より会場入口での手指消毒と検温チェックを厳格に遂行頂いた受付、各担当役員の方々の責任感とチームワークで本年度の集いが無事運営出来た事に、事務局担当者として心より感謝申し上げたい。

(鷺照吟詠会 河田轟声)



<コロナ感染防止対策に神経使う>



<岡山大学吟詩部の皆さん！マイクなしで力強い吟詠>



<新入会員紹介。昨年と本年度で27名が入会。本日は社会人の新入会員の欠席が多かった。>



<各支部趣向を凝らした吟詠発表>